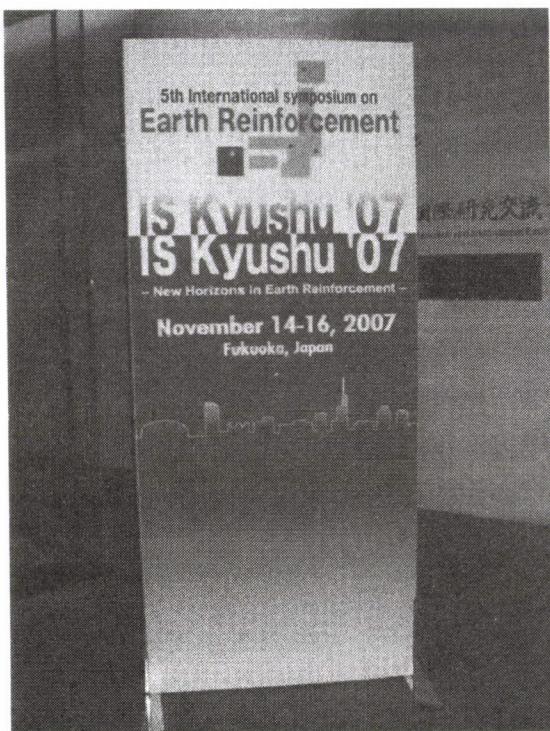


開催報告

IS Kyusyu '07 参加報告

前田工織(株) 竜田 尚希



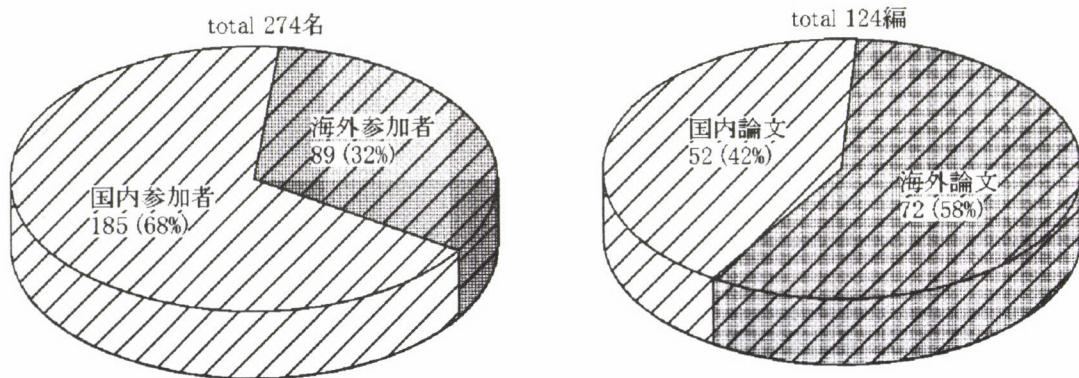
会場（九州大学西新プラザ）入口

2007年11月14日から16日の3日間、IS Kyusyu '07という補強土の国際シンポジウムが福岡にて開催された。このシンポジウムは4年ごとに、毎回、福岡にて開催されており、今回が5回目の開催となった。今回は、世界中の補強土の設計手法についての比較や、災害低減についての補強土の適用や新しい試みが報告された。

274名の参加者で、国内185名、海外89名という内訳であった。海外からは、27カ国もの国から参加があった。論文数は124編で、国内52編、海外72編（24カ国）という内訳であり、海外からの論文の方が多く集まった。補強土という限られた分野で開かれる、ほぼ唯一の国際シンポジウムであるためか、海外からの関心の目が非常に大きい印象を受けた。

論文発表と討論会では、活発な意見が交わされ、大変盛況であった。論文発表では、補強土の崩壊事例など、これまでには見られないような内容の論文が多数見られた。補強土の適用にあたって、世界中で様々な問題が生じていることが分かる。これはまた、補強土が広く普及し、様々な状況の現場で使用されている証拠でもあると実感した。今後は、補強土のメンテナンスについての報告が増えるのではないかと考える。討論会では、世界の主要な機関で採用されている補強土の設計手法の比較が行われ、考え方の違いやそれぞれの優れた点をよく理解することができた。このような討論会も大変珍しい試みであったようだ。

ポスターセッションの会場でも多数の参加者が集まっており、軽食とビールのおかげで、各々



のポスターの前では、大変和やかな雰囲気で議論がされていた。展示ブースでは、日本国内の企業の技術が紹介されており、こちらも盛況であった。

シンポジウムの開催期間中は、ちょうど大相撲の九州場所が開催されており、海外の方で見に行かれた方は、大変エキサイティングな時間を過ごされていたようである。

今回、5回目の開催ということで、第一回の開催から約20年の時が経っている。その間に、補強土が世界中で普及されており、ジオテキスタイルメーカーに勤める私には大変誇らしく感じた。また、20年という時の経過の中でシンポジウムの事務局を務めたメンバーが若く一新されたことも報告されており、このシンポジウムの歴史を感じさせる場面もあった。

このような世界的にも注目され、活気あふれるシンポジウムが、また4年後を開催されることを楽しみに思う。



発表会場



討論会



ポスターセッション会場



企業展示ブース